



「心うごかす キラリびと」は、町内在住や出身の方などで、様々な分野で活躍されている方を紹介していきます。

記念すべき第1回目は、書家の石垣洋子さんと写真愛好家の田中 信一郎さんを紹介いたします。

石垣さんは、今月号からリニューアルされた広報ごかの表紙に掲載されている「五霞」の文字を毛筆で書いていただきました。

以前のイラストとは違い、毛筆で書かれた「五霞」という文字は、迫力があります。

また、田中さんは、広報ごかに写真を多数提供いただいています。今月号に提供いただいた表紙の写真は、「圏央道利根川橋より朝日を望む」と題し、朝日が利根川の川面を照らしている幻想的な写真となっています。



書家
石垣 翠園さん
(洋子) ひろこ

書道という日本古来の伝統を引き続き

小学生の習い事の一環として書道を始め、現在は、書道教室を主宰し、小学2年生から中学3年生までの生徒が通っています。

書道教室では、教えることの難しさを感じることもあり、生徒同士が助け合い、教え合っている姿を見ると、私自身も楽しさと生きがいを感じます。

また、最近の教室では、椅子に座り、書くことが主流となっていますが、私の教室では、椅子ではなく、古来の座布団に正座し、「札に始まり札に終わる」「靴を揃える」「あいさつ」などの礼儀作法も子どもたちは、学んでいます。

書道教室以外に、友人に頼まれて、道の駅ごかに出荷している商品のネームシールや子どもの誕生記念の名前などの作成も行っています。

今回、広報ごかの「五霞」という文字を書く上では、無心で書いていましたが、私が感じる五霞町の『素朴感』『心穏やかさ』『川の流れ』をイメージして書き上げました。

石垣さんの作品を紹介します



「旅立ち2007」

この作品は、息子たちのそれぞれの出発(巣立ち)を祝い、「無限に広がれ 新しい世界へ」という思いを書き上げました。

写真でふるさとを記録に残す

父親の影響を受け、中学生の頃、カメラに興味を持ち始め、現在は、町内の風景や人物を撮影し、町が発行する広報紙やパンフレット等に写真を提供しているほか、県内外の写真屋からの依頼を受け、学校や幼稚園の入学式などの写真を撮影しています。

また、道の駅ごかにあるレストラン華ごぶしのメニュー写真も撮影していましたが、道の駅の従業員へカメラの使い方や光の取り込み方などを教え、最近では、従業員の方がメニューの写真を撮影しています。撮影されたメニューの写真を見せてもらうと、おもしろく撮影されているので、とてもうれしく感じます。



写真愛好家
田中 信一郎さん

シャッターチャンスは、いつ、何時起こるか分からないので、いつも、カメラを持ち歩き、毎日、何かしらの写真を撮影しています。

毎年、提供しています広報ごか新年号の写真を撮影する際には、「町内(ふるさと)の顔」をイメージし、その時代にあった風景を撮影し、記録に残しています。



田中さんから提供のあった広報写真の一部